

☆☆図書室だより☆☆ ☆第43号☆

☆☆- 図書委員会よりお知らせ -☆☆



処暑の折、平和を願う主日に、おすすめしたい本と併せて新しく入った本の紹介をさせていただきます。

ご紹介



阿佐ヶ谷教会 伝道師 太田好則

『暴力の世界で柔和に生きる』 シリーズ《和解の神学》 日本基督教団出版局

スタンリー・ハワーワス ジャン・バニエ 著 五十嵐成見 平野克己 他 訳

平和というテーマが与えられた。毎年8月が来るたびに考えさせられる。武器を捨てる、自分の力を捨てる……いつも思考は簡単なところに戻る。だが平和は実現しない。いったい何が、それを難しくしているのだろうか。私たちの心には相変わらず壁がある。障がいのある人と、いわゆる健常者、裕福な人と貧困にある人、その壁は恐れから来ている。私たちは壁のどちら側に立つのかを問題にする。私たちはそこで、ラザロと金持ちの話を想起しなければならない。イエス様がどちらの立場に立たれたのか。壁の向こう側の人を変えようとするのではなく、受け入れることこそが重要なのだ。そこで私たちは自分の場所を譲らなければならない。できるだろうか。いや、できる。イエス様は私をそのままに受け入れてくださったのではないか。私を御用のためにお用いになるではないか。成し遂げる力もお与えになるではないか。この本はそうしたことを改めて教えてくれる。

《購入書》	書 名	著者名・出版社・発行年など
あらすじで読む	三浦綾子名著36選	森下辰衛 監修/著 他 日本キリスト教団出版局 2022.10.25 [黒 910.26 Mo]
氷点	三浦綾子 著	角川書店 2012.6.22 [黒 913.64 Mi]
教養としての	ラテン語の授業	ハン・ドンイル 著 本村凌二 監修 岡崎暢子 翻訳 ダイヤモンド 2023.1.5 [黒 892 Ha]
21世紀の	キリスト教入門	一つの教会の豊かな信仰 フスト・ゴンサレス 著 神代真砂実 高野佳男 訳 教文館 2022.11.10 [赤 190. Go]
「青年の夕べ」感話集	いのちの言葉を交わすとき	飯島信 編著 YOBEL 2022.11.7 [青 198.34 Ii]
最初の復活祭	クリスティーナ・カライ・ナギー 絵 ペサン・ジェームズ 文 サンパウロ 訳	サンパウロ 2015.9.1 [赤 192.8 Na]
《再登録書》	書 名	著者名・出版社・発行年など
ひつじが丘	三浦綾子 著	主婦の友社 1976/8/1 [黒 913.64 Mi]
北国日記	〃	主婦の友社 1984/5/14 [黒 913.64 Mi]
あさっての風	〃	角川書店 1977/4/30 [黒 913.64 Mi]
道ありき	〃	主婦の友社 1973/9/10 [黒 913.64 Mi]
愛すること信じること	〃	講談社 1975/11/20 [黒 913.64 Mi]
病めるときも	〃	朝日新聞社 1976/10/15 [黒 913.64 Mi]
泉への招待	〃	日本基督教団出版局 1983/10/8 [黒 913.64 Mi]

「BC級戦犯にされたキリスト者 中田善秋と宣撫工作」

☆ ☆

小塩海平 著 いのちのことば社〔茶 198.321 Ko〕

心が重くなる小冊子である。中田善秋は神学校卒業と同時にフィリピンに宣教師派遣され、住民を日本軍に協力させる軍属でもあった。1945年2月24日、日本軍はフィリピンのサンバプロで中国人とフィリピン人の若者を教会に集め、650人を斬殺した。現場にいた中田は虐殺で訴追された。中田に義兄と友人の弟を助けられた女性は、「中田は人を救ったが、日本人ゆえに死刑に値する」と証言した。検察側は、最終弁論で「キリストは700人の虐殺を許すはずがない。」と陳述し、中田は重労働30年の判決を受けた。その後、巣鴨プリズンに移送された中田は、裁判の理不尽さに怒るも、中国人という理由で虐殺した軍に協力してきた罪に気づく。虐殺の責任を日本人ゆえにその代価を自ら払い、獄中で信仰を深めたが、釈放後、中田は教会には戻らなかった。神学校、教団、教会、個人の戦争責任を考えさせる貴重な書である。（H.Y. 信友会）



「神様のファインダー」

ジョー・オダネル 写真 坂井貴美子 編著 いのちのことば社フォレストブックス

忘れられない写真がある。抱き合って戦争終結を喜ぶ兵士たち—その写真が私の心をとらえて離さないのは、昨日まで敵味方として戦った2人が旧知の友のように喜びを分かち合う姿を切りとったカメラマンの技量ゆえ。否、それ以上に、写真を見た人が「平和をつくり出す人」となるために、この瞬間を後世に残すようにという神の促しがあったからだろう。「焼き場に立つ少年」の写真で知られるジョー・オダネルもまた、神からカメラを託された人であった。カメラマンとして終戦直後の日本に赴いた経緯、長い年月を経て当時の写真を公開するという決意、国籍と年齢の違いを超えて最良の理解者となる伴侶との出会い、様々な困難に遭ってなお、人間への愛、平和を希求する思いを伝え続ける道のりの随所で、彼は「見えない力に押されて行動してい」た。戦争が決して遠い歴史の出来事ではない今、オダネル氏の写真を通して神の力が働き続けることを願ってやまない。（I.I 若草会）

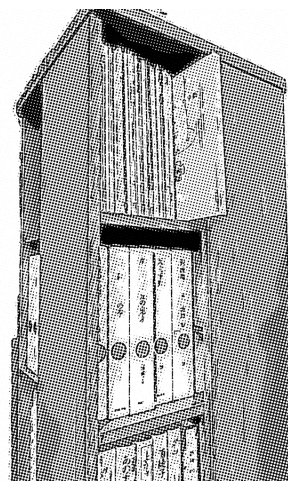
《ご寄贈書》	書名	著者名・出版社・発行年など
聖霊の信仰	東神大パンフレット 12	熊沢義宣 著 東京神学大学 1988/6/10 [赤 191 To 12]
祈りのともしび	2000年の信仰者の祈りに学ぶ	平野克己 編 日本キリスト教団出版局 2016/10/30 [茶 196.1 Hi]
脳神経症候イラストブック	馬場元毅 著/イラスト	Gakken 2022.4.20 [青 198.34 Mi]
シュヴァイツァー著作集 第十巻	使徒パウロの神秘主義(上)	武藤一雄 白水社 1957.11.25 [橙 193.71 Sc 10]
〃 第十一巻	〃 (下)	岸田晩節 訳 〃 1958.6.30 [橙 193.71 Sc 11]
〃 第十七巻	イエス伝研究史(上)	遠藤彰 〃 1972.11.25 [赤 192.8 Sc 17]
〃 第十八巻	〃 (中)	森田雄三郎 訳 〃 1973.9.25 [赤 192.8 Sc 18]
〃 第十九巻	〃 (下)	〃 訳 〃 1972.11.25 [赤 192.8 Sc 19]
《再登録書》	書名	著者名・出版社・発行年など
藤井武全集 第一巻	子羊の婚姻	岩波書店 1972/1/12 [赤 190.8 Fu 1]
〃 第三巻	創世研究 ヨブ記研究	〃 1971/5/12 [赤 190.8 Fu 3]
〃 第四巻	詩篇研究 ダビデ研究	〃 1971/9/13 [赤 190.8 Fu 4]
〃 第五巻	イエス伝研究 黙示録研究 教会論	〃 1971/6/12 [赤 190.8 Fu 5]
〃 第六巻	ロマ書研究 哲学研究 神学研究	〃 1971/7/12 [赤 190.8 Fu 6]
〃 第七巻	信仰生活 聖書の結婚観 神学瞥見	〃 1971/10/12 [赤 190.8 Fu 7]
〃 第八巻	ミルトン研究 楽園喪失 ルーテル論 ルーテルの生涯及び事業	〃 1971/11/12 [赤 190.8 Fu 8]
〃 第九巻	学生時代 官吏時代 新生 柏木時代 永遠の希望	〃 1971/12/13 [赤 190.8 Fu 9]
〃 第十巻	自伝・師友 雑纂 書簡 小伝並に年譜 著作年譜 著作索引	〃 1972/2/15 [赤 190.8 Fu 10]

くるくる回る本棚が入りました。「東神大パンフレット」などの小冊子や「三浦綾子」関連など親しめる本を配架しました。是非親しんでください。

「東神大パンフレット」のおすすめ 東京神学大学出版 1970年代～1980年代

阿佐ヶ谷教会の図書室はキリスト教関係の本が充実しており、扉が開いているとつい覗きたくなります。先日、偶然「とても古い東神大パンフレットを発掘しました」という声を聞きつけて見に行きましたら、聖書の解説や教義学入門、教会論や信仰論など、次々出てくるあれこれに夢中になりました。

東神大パンフレットをご存知でしょうか？1971年の「創刊の辞」には、不安と困惑が見られる混迷の時代に福音に堅く立つことを願い、東京神学大学がなしうることを模索し創刊されたことが書かれています。それから半世紀以上経た今もまた、混迷の時代と言えるのではないのでしょうか。東神大パンフレットは小さくて薄い本です。カバンに入れても邪魔にならず、重たくありません。キリスト者としてこの時代をどう生きればいいのか、どのように福音を伝えればいいのかを考える一つの小さな機会として、一度手に取っていただけたら幸いです。（K.K 神学生）

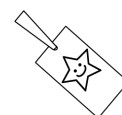


小冊子いろいろ（現在蔵書にある冊子の一部紹介）

「東神大パンフレット」

No.12 「聖霊の信仰」 熊沢義宣 著 1988.6.10発行

使徒信条は「我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、処女マリヤより生まれ…」とイエス様の生涯をたどり「我は聖霊を信ず、聖なる公同の教会、聖徒の交り、罪の赦し、身体のよみがえり、永遠の生命を信ず。」と告白する。「主」「独り子（イエス様）」は分かる。しかし「聖霊」がイメージできない。天使では無い。「父・子・聖霊」のうちどうしても「聖霊」が心に収まりにくい。ニカイア信条でも突然「我らは聖霊を信ずる。」だ。聖霊は主とイエス様をつなぐのは分かる。創世記に神は人をご自身に似せて創ったとある。神、イエス様は想像できる。『聖霊の信仰』を読んでみた。聖霊は新約時代から大活躍だ。そして主、イエス様、我々を強く繋いでくれるのだが・・・！？（m 図書委員）



「キリスト教のポイント」

No.10 「死と終末」 大宮 溥 著 日本基督教団出版局 1971.6.10発行

敬愛する大宮溥先生のあの優しい盛り沢山の語りで、「死」というものの意味、新たな世を待ち望む「終末論」、「黙示文学」が盛んになった歴史的状況など、小冊子に読み切れるようにまとめられています。（Ri）



～ 森下辰衛先生講演会、特別伝道礼拝に寄せて ～



この機会に 三浦綾子 を改めてお読みになりませんか

阿佐ヶ谷教会創立100周年記念事業として、森下辰衛先生による講演会及び特別伝道礼拝が、9月16日及び17日に開催されます。森下先生は、三浦綾子読書会代表、旭川市にある三浦綾子記念文学館特別研究員であり、講演会では自伝『道ありき』を中心に、三浦綾子文学の核心と全体を楽しく分かりやすくお話しされます。また森下先生は、「信徒の友」で3年にわたり連載されてきた『あらすじで読む 三浦綾子 名著36選』を、2022年10月に日本キリスト教団出版局より出版されました。

教会図書室には、下記のように三浦綾子の多くの作品があります。森下先生は、三浦綾子の文学は「苦難に満ちた自分の実人生の上に育てられ、神との対話によって熟成された」とされています。この機会に三浦綾子の作品に改めて触れ、お読みになりませんか。 (K.I 図書委員)

三浦綾子関連作品いろいろ (現在蔵書にある関連書の一部紹介)

『三浦綾子作品集』全18巻

朝日新聞社 1983.5～84.10発行

収蔵作品:「氷点」「積み木の箱」「塩狩峠」「天北原野」「泥流地帯」「細川ガラシャ夫人」「道ありき」など

[単行本]類

『ナナカマドの街から』(北海道新聞 1985.11)『ちいしば先生物語』(朝日新聞社 87.5) 『愛すること生きること』(光文社 97.5)『言葉の花束 愛と命の770章』(講談社 98.6)『三浦綾子対話集』(旬報社 99.1～3)『夕映えの旅人 生かされてある日々3 (三浦光世との共著)』(日本基督教団出版局 2000.10)『旧約聖書入門』(光文社文庫 2021.2)『新約聖書入門』(光文社文庫 2022.5)『三浦綾子 祈りのことば』(日本キリスト教団出版局 2022.4) など



「塩狩峠」

三浦綾子 著

三浦綾子作品集 第9巻

朝日新聞社

『塩狩峠』は、「信徒の友」に1966年4月号から29回にわたって連載された。旭川六条教会の小川牧師が1939年の教会月報に「キリストの忠僕長野政雄兄が、鉄道職員として、信仰を職務実行の上に現し、人命救助のため殉職の死を遂げられた」と書いたように、実在の人物をモデルとしている。

三浦綾子は、連載を始めるに際し「この小説で私は犠牲について考えてみたい」、「犠牲とは、神への捧げもののことである」とし、また作品のあとがきでは、構想を考え、長野政雄氏の資料を調べるにつれ、「こんな信仰の先輩が、私たちの教会に、現実生きておられたのか」との深く激しい感動に包まれたとしている。この感動が、三浦文学の素顔の作品と言われる『塩狩峠』を生み出した。本の表紙裏にはヨハネ福音書12章の「一粒の麦」の聖句が書かれている。 (K.I)



「三浦綾子 祈りのことば」

三浦綾子 著 おちあいまちこ 写真

日本キリスト教団出版局

おちあいまちこさん写真背景に三浦綾子さんの祈りを鑑賞し、共にその美しい世界を見上げて祈っている気持ちになります。そのように世界を創られた神様を崇めてお祈りしたいと思います。

(P.20-21より) …もし空が赤くて 野が灰色とすれば 地に住む者の 平安はあったでしょうか
ああ 主の聖名は讃むべきかな… …「剣を鋤に変える」日を 一日も早くお与えください…

綺麗で、ちょっと疲れた時に癒される写真&祈り集なので、一度開いてみてください。 (Ri)